衆議院議員 穴見陽一（あなみ よういち） FAX通信 H28年 11月1号

「儲かる考え方②」

日本人には、横並びになる性質があるようです。権威ある人がこうだと決めると、一斉にそれに従うことが、様々な場所で散見されます。典型的なのは、食事に行った時によく聞く「一緒ので」というセリフじゃないでしょうか。私達には、無難な選択をする癖が、染み付いているような気がします。それが人付き合い程度の事なら良い面もありますが、人生や仕事の選択となると、これは「儲からない」考え方です。人と同じ事をすると、必ず不必要な競争が起きて、大半が負け組となってしまうからです。日本の企業や個人が儲からない理由は、この横並び体質にあるように思います。

前回、儲かるとは、ニーズに正しく応えて、正当な対価を得ることだと申し上げました。横並びの考え方は、ニーズへの意識が無いように思います。あの分野の仕事は儲かってるらしいからやってみようとか、あの資格を取っている人は儲かってるようだから取ってみようとか、あの大学を出ている人は儲かってるみたいだから、入りたいとかです。でも、そういう人達には成功した人もいますが、かなり儲かっていない人達がいるように感じます。勝ち組が居れば、必ず負け組がそれ以上に生まれます。人の真似をすることは、実は失敗リスクが高い選択のように思います。

ニーズは、そこここに転がっています。誰も応えていないニーズです。何故それに応えないのか、何故それを拾わないのか、実は私はいつも不思議に思っています。そのニーズの中には、お金を払ってでもやって欲しいというものも、沢山あります。それを拾って応える。正当な対価を得る。すると儲かる。ある意味、とても単純なことなのですが、その儲けの種のニーズに、いちべつもくれない方々が大多数です。

「わらしべ長者」という童話があります。長者になりたいという若者が、神社で神様に祈ると、神様の声が聞こえて来て、「これから目を開けて最初に見えたものを大切にしなさい」と言われて目を開けると、一本のゴミクズのようなワラシベ、即ち、草の茎が千切れて乾燥したものが目の前に見えた。こんなどうでもいい、そこらじゅうに転がっているものを後生大事にせよと言われても、普通は出来ないでしょう。しかし彼は、神様の言われた通りにします。すると、それがみかんに、反物に、馬に、屋敷にと、次々に物々交換で儲かっていきました。わらしべ長者がやった事は二つです。目の前にあるつまらないものを大切にしたことと、困っている人のニーズに応え続けたことです。

この「わらしべ長者」の考え方が「儲かる考え方」です。儲かろうとして、儲かっている所の門前の列に並んでいても儲かりません。そしてプライドも敵です。儲からない人達は出来ない理由を並べます。その理由の原因の多くは、プライドと怠慢です。素直に、儲かる人となって、明るく豊かで朗らかに生きてみませんか？

Facebook でも活動報告を行っています。〈Facebook アドレス〉 https://www.facebook.com/anamiyoichi

皆様のご意見をお聞かせください！ お待ちしています。

衆議院議員 穴見陽一（あなみ よういち） 後援会 事務所

〒870-1133 大分市大字宮崎867-18 **TEL.097-567-1319 FAX.097-567-2010**
http://www.anamin.net E-mail:info@anamin.net